

講義コード	213927801	
講義名	ビジネスイングリッシュ A	
(副題)	BB-BAL-3210	
開講責任部署	経営学部経営学科 (大学)	
講義開講時期	前期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門教育科目	
科目分野名	学部共通科目	
対象学部・年次	経営学部経営学科・2年～	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	趙 美慧	経営学部

授業の概要

企業活動のグローバル化に伴い、海外の企業（取引先）と様々なやり取りが行われることとなります。その際に英語の資料を読んで理解することや、英語でメールや電話のやり取りをする必要性が生じます。

本講義では主にビジネスに関連する英文の「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の練習を行います。

辞書、翻訳Appなど毎回持参または準備してください。

授業の到達目標及びテーマ

この科目は、国際ビジネスで求められる実践的な英語コミュニケーション力を習得することを目的としている。国際的な職場環境に必要な英語力を養い、企業経営に関する専門用語と国際ビジネスに関する実用的な知識を身につけましょう。

授業計画表

第1回	項目	ガイダンス
	内容	The Increasing Demand for English Proficiency at Work
第2回	項目	面接 [Job Interviews]
	内容	Tips for Successful Job Interviews
第3回	項目	会社プロフィール [Company Profile]
	内容	Features of Japanese Companies
第4回	項目	仕事の内容 [Job Description]
	内容	The Structure of a Manufacturing Company
第5回	項目	1-4のまとめ&グループ分け
	内容	トピック&発表順番を決める
第6回	項目	会議開催の通知 [Email — Announcing a Meeting]
	内容	Modern International Business Communication
第7回	項目	ビジネスパートナーを空港で出迎える [Meeting Business Associates at the Airport]
	内容	Departure and Arrival Procedures
第8回	項目	受付での対応 [At the Reception Desk]
	内容	The Importance of Hospitality in Business Dealings
第9回	項目	紹介と名刺交換 [Introductions & Exchanging Business Cards]
	内容	Intercultural Communication in Business Environments
第10回	項目	会議冒頭のあいさつ [Opening Remarks at a Meeting]

	内容	Government Efforts to Increase the Number of Foreign Visitors to Japan
第11回	項目	プレゼンテーション [Presentation]
	内容	Practic
第12回	項目	Giving Presentations
	内容	Practic
第13回	項目	交渉 [Negotiation]
	内容	The Art of Negotiation
第14回	項目	接待 [Invitation to Dinner]
	内容	Entertaining Overseas Business Partners
第15回	項目	まとめReview
	内容	Final test

授業時間外の学修

予習：事前にテキストの該当ページを予習してのぞむこと。ビジネス英語の語彙力を増やすために毎回小テストを実施するので学習をしていくこと。

復習：学習した単語、表現を復習して定着させること。特に自宅ではリスニングを十分に行ってください。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシー①③ 自律学習能力の修得	ディプロマポリシー② 専門的知識・技術の修得	ディプロマポリシー④ 分析・論理構成・表現力の修得	ディプロマポリシー⑤⑥ 問題解決能力・協働性の獲得
○	○	◎	◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行っていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解していて、自主的な学修も少し行っていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
調査する力	自ら進んで調べるとともに、それを他者に説明することができる	定められた範囲について自分の力で調べることができている	定められた範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な部分がある	定められた範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	50%	課題提出や小テスト。
成果発表	30%	ペアワークやグループワーク等を使って受講生の積極的な発表、授業参加を促す。
授業への貢献度	20%	
レポート		
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の冒頭で解説、講評する 授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する 授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する 授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等 チャット 掲示板の活用 メール等の活用
--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
発問の吟味・精選 グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用	PBL(課題解決型授業)	授業前レポート（予習）

教科書

Business English 実践ビジネス英語/Kazushige Tsuji, Setsu Tsuji, Margaret M. Lieb/朝日出版社

参考書

指定なし

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
--

特記事項等

1. 欠席、遅刻によるテスト等の再試は原則実施しない。
2. 期限後に提出された課題は評価対象にならない。
3. 連絡事項はWebClassに掲示するので確認すること。
4. 辞書を持参すること。

学生へのメッセージ

休まず出席すること、授業に積極的に参加すること。

研究室（訪問先等）

430研究室

授業用E-mail

bikeityo@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

平常点(100点) 平常点等配点内訳:課題&テスト(50点) グループワーク(30点)、授業への積極的参加度(20点)